

## 南檜山地域・職域連携推進連絡会に関するアンケート調査結果について

### ① 調査目的

南檜山圏域の地域・職域連携に関する課題や現状を把握し、今後、事業を推進する上での基礎資料とすることを目的に実施した。

### ② 調査内容

南檜山地域・職域連携推進連絡会に関するアンケート調査（資料 1 - 2 のとおり）

### ③ 調査時期

令和3年(2021年) 8月～9月

### ④ 調査対象

南檜山地域・職域連携推進連絡会構成団体・・・15団体

### ⑤ 調査回収

団体数・・・15団体

回収数・・・14団体

回収率・・・93%

# ① 「南檜山地域・職域連携推進連絡会の構成団体の見直しについて」

## ○調査結果

【設問 1】 今後、地域と職域の連携を推進していくため、当連絡会の構成団体の見直しが必要だと思いますか。

【回答 1】	<b>必要だと思う</b>	<b>必要だと思わない</b>	<b>分からない</b>
	5団体	8団体	1団体

【設問 2】 今後、当連絡会の構成団体として、新たに加わって欲しい団体名について記載してください。

【回答 2】 「檜山広域行政組合消防本部」、「町内会」との回答があった。  
また、具体的には思い浮かばないが、「医療・福祉」、「教育」、「運輸・交通業」等の参画を求める意見もあった。

【設問 3】 今後、当連絡会の構成団体として、どのような事業内容の団体に加わって欲しいかお聞きします。

【回答 3】	<b>医療・福祉</b>	<b>教育</b>	<b>金融業</b>	<b>運輸・交通業</b>	<b>宿泊業</b>	<b>建設業</b>	<b>製造業</b>	<b>卸売・小売業</b>	<b>その他</b>
	1団体	2団体	0団体	1団体	1団体	1団体	0団体	0団体	2団体

(その他) ・取組に合わせた関係団体



## ○まとめ

- ・ 5団体から構成団体の見直しが必要であると回答があった。
- ・ 「医療・福祉」、「教育」、「運輸・交通業」等の参画を求める意見がみられた。
- ・ 今後、地域と職域連携の具体的な取組が明確になった上で、調査結果を踏まえつつ、その取組に合わせた団体の参集を図る。

## ② 「地域・職域における生活習慣病対策（糖尿病、高血圧〈減塩〉）の取組状況の把握について」

### ○調査結果

【設問 4】 貴団体において実施している住民・職員等に対する生活習慣病対策（特に糖尿病・高血圧〈減塩〉）について記載してください。

- 【回答 4】
- (地域)
    - ・えさしレシピ普及推進運動（減塩）
    - ・南檜山糖尿病重症化予防プロジェクト（糖尿病）
    - ・家庭血圧の普及（高血圧）
    - ・診療情報提供事業（生活習慣病全般）
    - ・奥尻町糖尿病性腎症重症化予防事業（糖尿病）
    - ・奥尻町健康マイレージ事業（生活習慣病全般）
    - ・健診結果説明会等での砂糖量の可視化（糖尿病）
  - (職域)
    - ・健康保険組合からの健康サポート・指導（生活習慣病全般）
  - (その他団体)
    - ・函館市地域リハビリテーション活動（生活習慣病全般）
    - ・糖尿病教室（糖尿病）

【設問 5】 貴団体において実施している定期健診の実施状況についてお聞きします。（職域関係団体のみ回答）

【回答 5】

毎年実施している	毎年ではないが実施している	実施していない	その他
5団体	0団体	0団体	1団体 (個人で受診)

【設問 6】 貴団体において、定期健診の結果、精密検査となった職員に対する対応についてお聞きします。（職域関係団体のみ回答）

【回答 6】

医療機関へ受診をすすめ、その結果も把握している	医療機関への受診をすすめるが、それ以降の結果は把握していない	特になにもしない	その他
3団体	2団体	1団体	0団体



### ○まとめ

- ・職域における定期健診の実施状況では、ほとんどの団体が「毎年定期健診を実施している」ことが把握できた。
- ・精密検査については、「受診勧奨はしているがその結果は把握していない」と「特になにもしない」との回答が半数であった。
- ・また、職域における生活習慣病対策については、「特になし」が多く、健康保険組合からのサポートが1件であった。
- ・働く世代へより充実した保健サービスの提供（健診、健康教育等）を行うためには、地域と職域が実施している保健事業の共同実施等を行うことが重要である。

### ③「地域と職域の連携体制の課題の明確化について」

#### ○調査結果

【設問7】 働く世代の健康づくりに関して課題と思われることについて記載してください。

(役場) ・国保から見えてくる健康課題と職域での健康課題が同様なのか(職域における健康課題の未把握)。

・職域における健康診断の実施状況の未把握、働く世代への健康づくりに対するフォロー体制。

(職域) ・仕事を休める環境づくり、健診実施の有無、職員の健康づくりに対する意識。

(その他) ・メンタルヘルスケア、特定健診の受診率の低さ、住民の健康意識の低さ、塩分摂取量の過多。

【設問8】 今後、働く世代の健康づくりを推進していくために、「地域・職域で連携していきたいこと」又は「地域・職域連携のもと取り組みそうなこと」について記載してください。

(役場) ・健診後の保健指導、事業所への健康教育。体操教室・減塩教室等の資源を職域に周知。

(職域) ・職員に対する生活習慣病に関する情報提供・セミナーの実施、健康保険組合からの指導、関係団体との意見交換。

(その他) ・多職種との連携、地域・職域の枠を超えた健康づくり(健康教室、受診勧奨など)の実施。

【設問9】 今後、地域と職域の連携を推進していく上で、課題と感じていることについて記載してください。

(役場) ・コロナ禍により地域の状況を把握する機会の減少、若い年代から自分の体について知る必要がある。

・各職域での課題を把握しないと、地域として協力していくことが難しい。職域で課題としていることが知りたい。

・そもそも職域との接点が少ない。お互いの健康課題について共有する場がない。

(職域) ・職員の扶養家族の健診・がん検診の受診方法が不明瞭なため、健診に関する分かりやすい資料があると受診者増加に繋がる。

(その他) ・健診の機会を逃さないように健診の案内・啓発、健康意識変化を直接住民に伝える必要がある。



#### ○まとめ

課題・・・

・職域における健康課題、取組状況の把握が必要であるとの意見が多くみられた。

・住民(職員)の健康意識の低さが課題であると意見がみられた。 ・職員、扶養家族の健診体制が課題との意見がみられた。

連携事業・・・

・情報提供、健康教育(体操、減塩)の実施 ・健康保険組合との連携

・職域における健康課題及び取組状況の把握のため、連絡会を開催し情報共有を図る。

・連絡会において地域と職域での連携事業を検討し実施していく。